

科目区分：人間科学科目

授業科目名	生体の構造（人類学入門）				学期	曜日	校時
英語名	Structural and Molecular Physiology (Introduction to Physical Anthropology)						
担当 教員名	六反田 篤 加藤 克知 真鍋 義孝	単位数	2単位	必修 選択	選択	後期 金曜日	2校時
授業のねらい・内容・方法							
<p>広義の人類学は人類の身体形質や文化などを対象とする総合的な科学であるが、本講義では人類の生物学的側面を明らかにする形質（自然）人類学の理解を目的とする。</p> <p>人類は約 500 万年前にアフリカで誕生して、世界各地に適応放散していき、現在では地球上のほとんどの地域に分布するに至った。この人類進化の過程において身体形質にみられた時代的变化や地域的変異について、種々の観点からアプローチした結果を紹介する。</p> <p>人類進化は霊長類進化の一部であり、ひいては脊椎動物の進化の一部を構成している。人類進化を理解するには、脊椎動物の進化の全体観を把握しておく必要がある。本講義では、特定の器官として歯をとりあげ、脊椎動物における歯の進化の流れを全体的に追ってゆくことによって、進化の様相の把握やその進化の要因についての考察を行う。</p> <p>焦点を世界から日本に絞ると、日本列島における集団の形成過程、すなわち日本人の起源に関する問題は、日本の形質人類学におけるメインテーマである。この問題に関して、初期の学説から最新の学説までの変遷について紹介する。</p> <p>地域や時代によっては、生身の肉体に人為的操作を加える「身体変工」が風習・奇習として存在する。それらはヒトの誕生と共に現れ、彼らの生活や文化の一部を形成してきた。本講義では、この「身体変工」の種類と方法を紹介し、さらにはそれらの意味や文化的背景について考察する。一方、死体に人為的操作を加えて一種の永久死体をつくる、いわゆる「ミイラ」づくりについても科学的に考察したい。</p> <p>講義の内容によっては、担当教員によって明らかにされた最新の知見を盛り込んで、わかりやすく紹介する。</p>							
テキスト、教材等							
教科書は用いないが、授業の内容によってスライドを提示したり、プリント資料を配付したりする。参考文献は必要に応じて、適宜紹介する。また研究資料やデータ採取の理解に必要な場合は、人骨標本や歯型標本の観察を行う。							
対象学生	成績評価の方法			教員研究室			
全学部	出席状況、受講態度（議論への積極的参加）、小試験および定期試験等を考慮して評価する。						
授業計画							
<p>講義は以下のような内容について行う予定である。</p> <p>人類学とは 人類進化概説 - 猿人から新人(解剖学的現代人)まで 人種の形成・アジア人の誕生 日本人の起源に関する諸説 風俗や習慣として生体への人為的操作を加える「身体変工」の種類と方法 死体に人為的操作を加えて一種の永久死体をつくる「ミイラ」づくりの科学的考察 脊椎動物における歯の進化 世界全体からみた現代人の歯の形態の地域的変異 歯の形態から見た日本人・台湾原住民の起源</p> <p>オフィスアワー（質問受付時間） 質問等は講義中または講義終了後に講義室にて受け付ける。その他、各教員の研究室においても随時受け付けるが、予め電話、メール等で問い合わせることが望ましい。メールアドレスは 六反田篤 roku@net.nagasaki-u.ac.jp 加藤克知 k-katou@net.nagasaki-u.ac.jp 真鍋義孝 manabe@net.nagasaki-u.ac.jp</p>							